

県立高校の在り方に関する 地区別情報交換会

令和7年11月20日

群馬県教育委員会

1. 社会の変化

- ・ 複雑かつ予測困難な課題を抱えた現代

➤ 高校教育の果たす役割は大きい

3. 生徒数の減少

- ・ 継続的な中学校卒業者の減少

➤ 学校の活力維持や特色化が必要

2. 生徒の多様化

- ・ 生徒の学習ニーズ、興味・関心、進路希望等の多様化

➤ 多様な生徒受入の体制づくりが必要

4. 教育のデジタル化

- ・ 社会や生活様式が大きく変容し、デジタル化が加速

➤ デジタルを活用した、個別最適な学びを推進

高校教育改革（県立高校の在り方の検討）が必要

既存の取組

- ◆ スーパーサイエンスハイスクール
- ◆ 非認知能力育成
- ◆ DXハイスクール など

+

在り方検討



すべての子どもに
公平で質の高い教育

01 地区別情報交換会

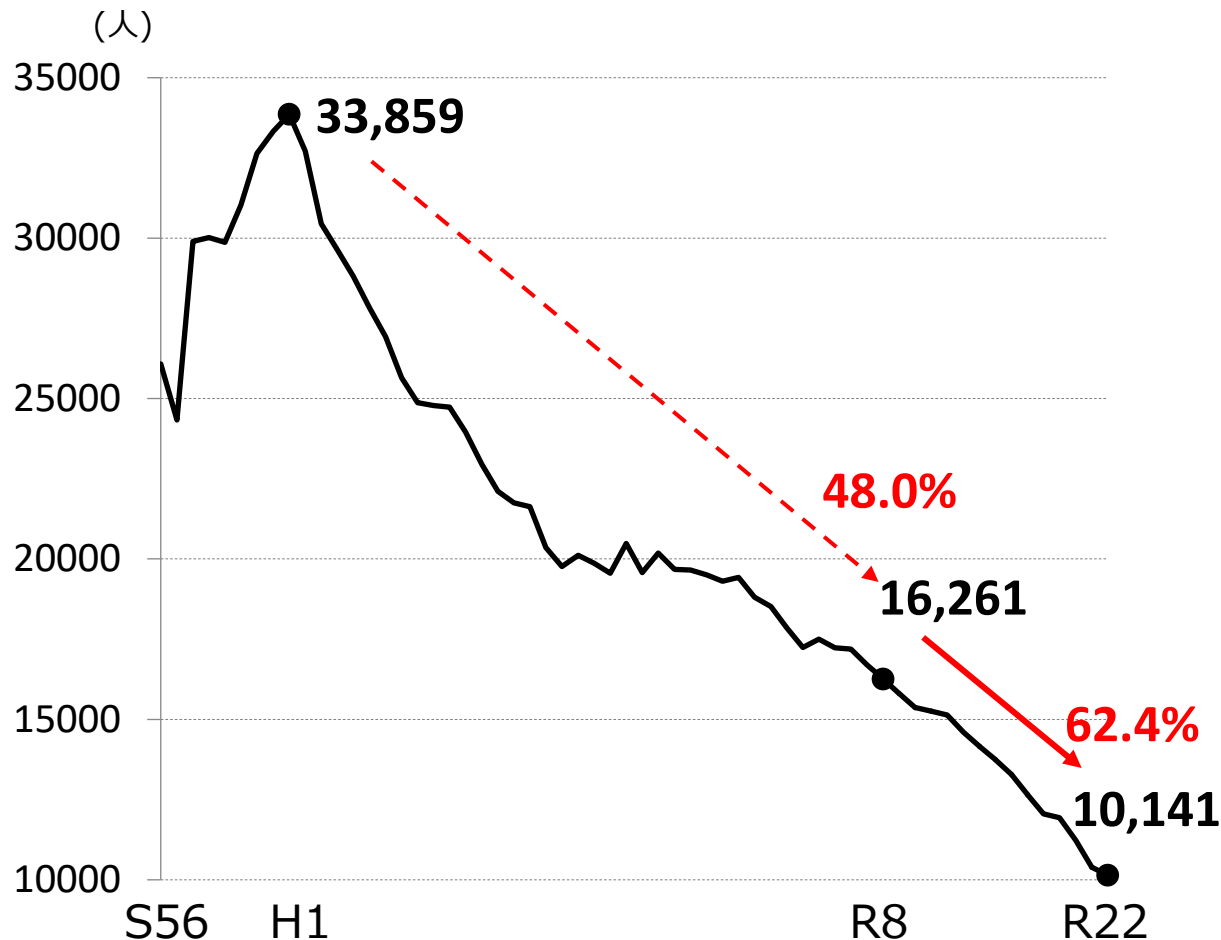
現状・課題等の情報共有



02 地区別検討会

地区ごとにゼロベースで
幅広く在り方を検討

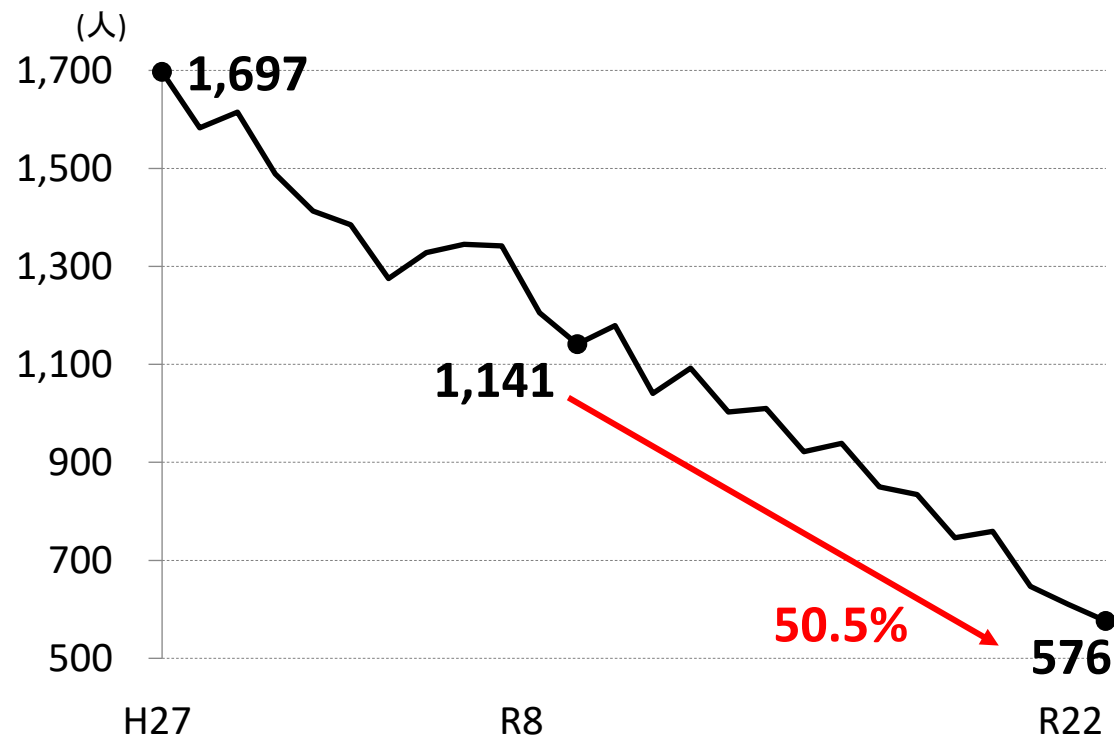
群馬県



・今後、数年間の見込み

R8→R9 : -455 , R9→R10 : -436 , R10→R11 : -114

桐生市・みどり市



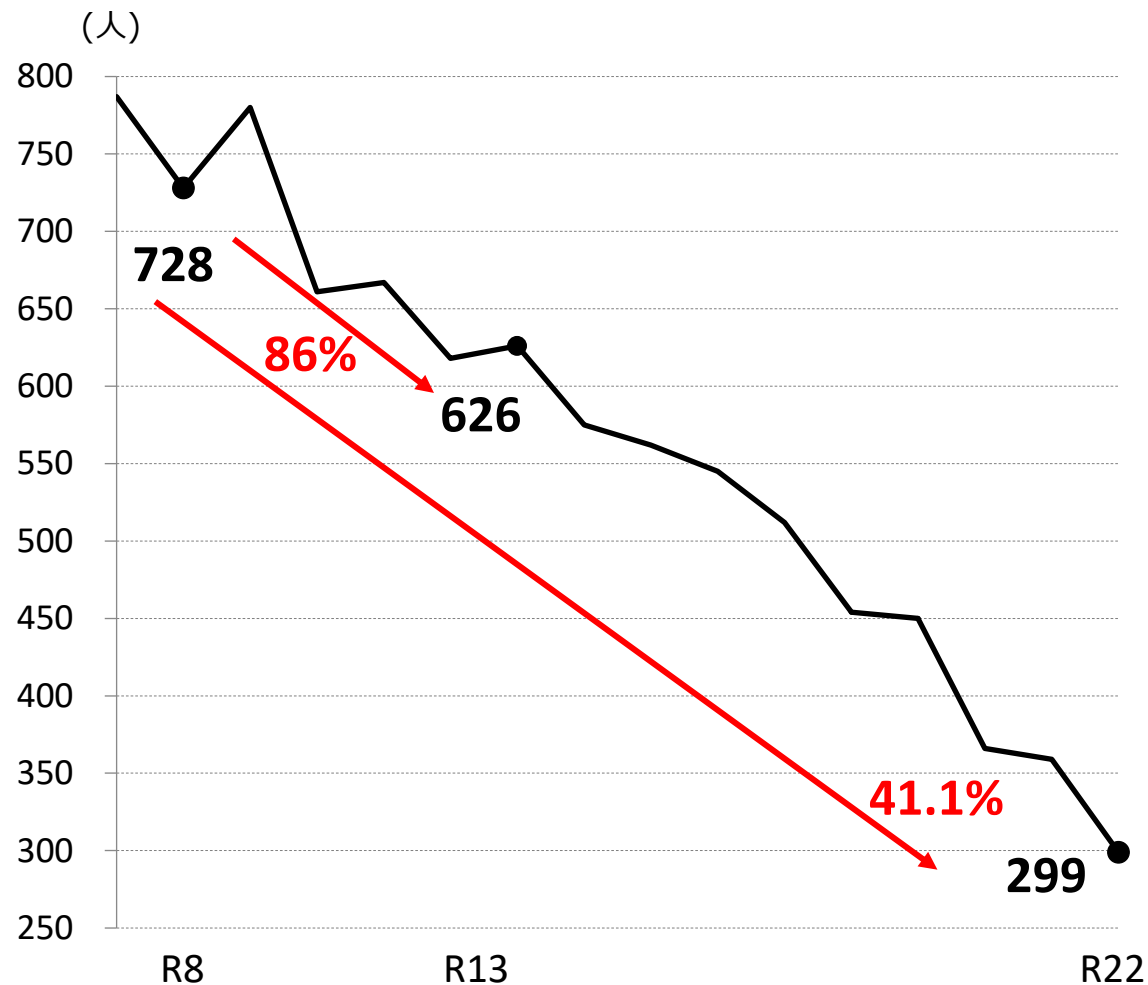
R8と比較して、R22(14年後)は、**565人減**の見込

現在の高校数を維持

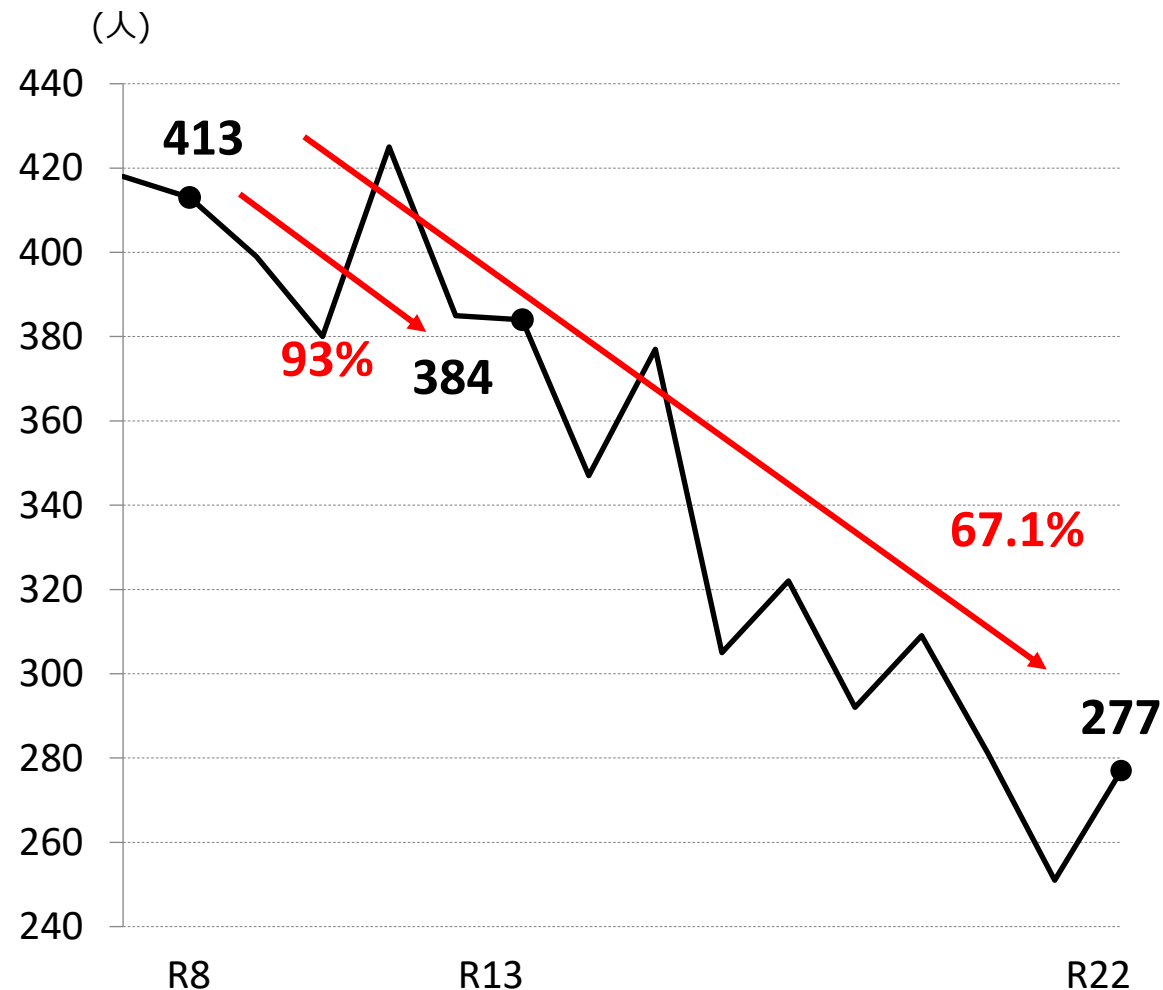


各高校の小規模化が進行

桐生市



みどり市



地区内の公立高校のプロフィール

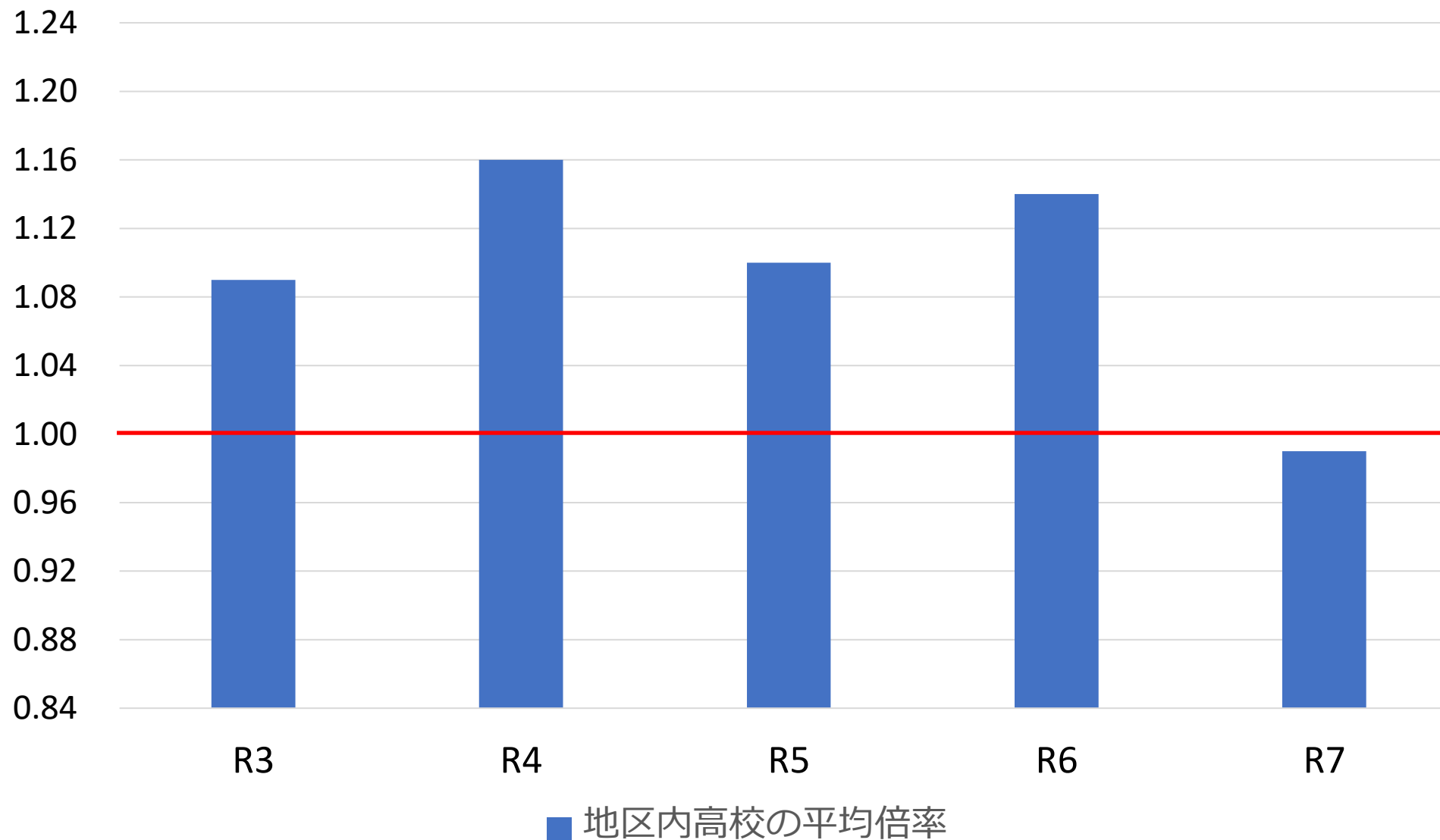
(R7学校要覧等をもとに作成)

課程：全→全日制、定→定時制、通→通信制

学校名	課程	R7.3 卒業者 数	進路状況(R7.3卒業生)				特徴
			大学	短大	専門 学校等	就職	
桐生	全	322	288	4	3	2	2021年開校の 普通科共学校 。SSH指定校。 県内最大規模の1学年8クラス（普通科6クラス+理数科2クラス）。 教育目標：生徒の自由な発想やチャレンジ精神を尊重し、幅広い知識の 習得とその活用を通じて、未来を切り拓く力を育てる。
	通	26	8	0	5	3	男女共学。新入生・編入生・転入生を受け入れている。
桐生清桜	全	235	132	17	73	3	2021年開校の普通科共学校。 進学重視型単位制高校 →幅広い進路に対応する多彩な選択科目。 アドバンスト探究コースを設置し、発展的・探究的な学習を展開。
桐生工業	全	149	25	3	43	85	1934年創立の 工業高校 。 機械、建設(建築コース・土木コース)、創造技術(電気コース・染色デザ インコース)の3学科を設置。
	定	6	0	0	2	1	1944年設置。45分4コマの授業時間。工業技術科。
大間々	全	107	8	1	49	48	1900年創立の普通科共学校。1998年に 単位制高校 に改編。 家庭、福祉、情報、商業、芸術等の専門科目が設定されている「多様な 学習型」の単位制高校。SDGsの視点を踏まえた課題解決学習「SDGs みらい探究」を実施。
桐生市立商業	全	208	80	12	50	63	1940年創立の 商業高校 。商業科と情報処理科を設置している。 教育ビジョン“S.P.A.R.K. for our well-being!”
	定	3	0	0	1	2	1949年、桐生市立高等学校に設置。商業科。45分4コマの授業時間。

* 入試倍率・・・R3～R5は後期選抜

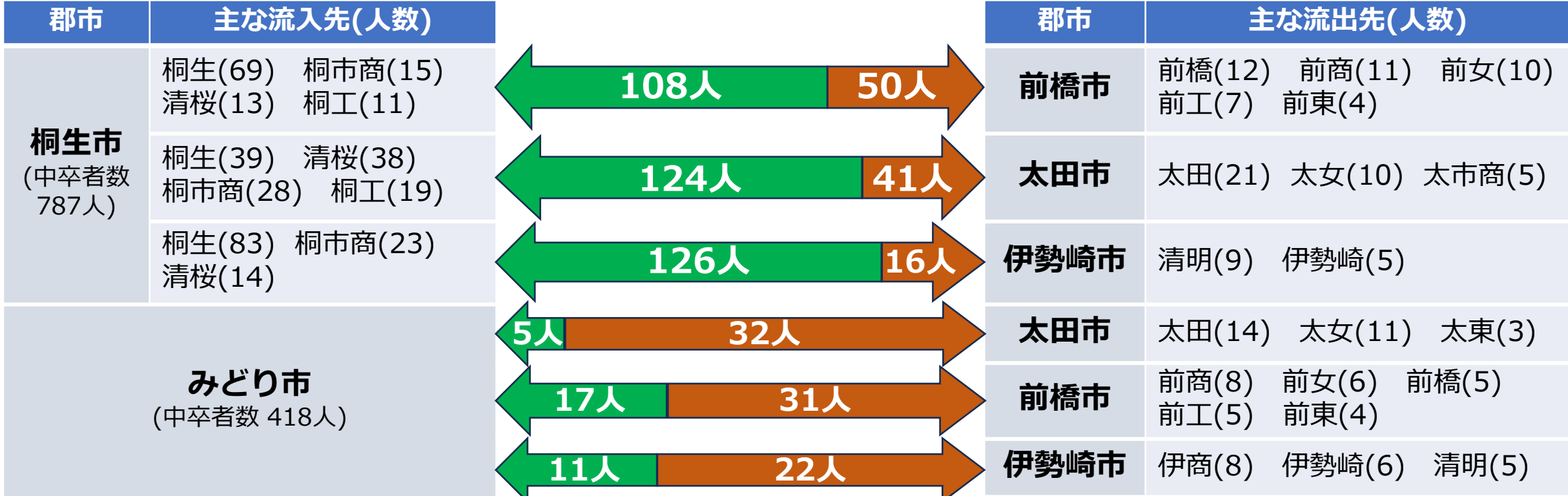
公立高校(全日制課程)の入試倍率*の推移



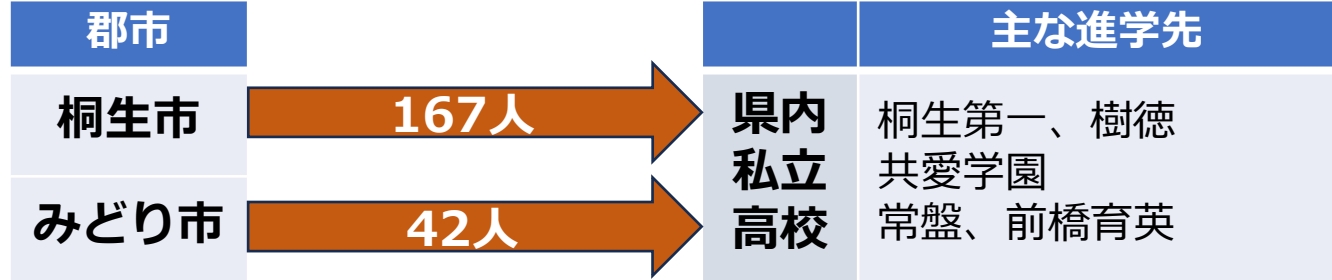
学校基本調査等を基に作成

R 7 中学校卒業者の主な動き

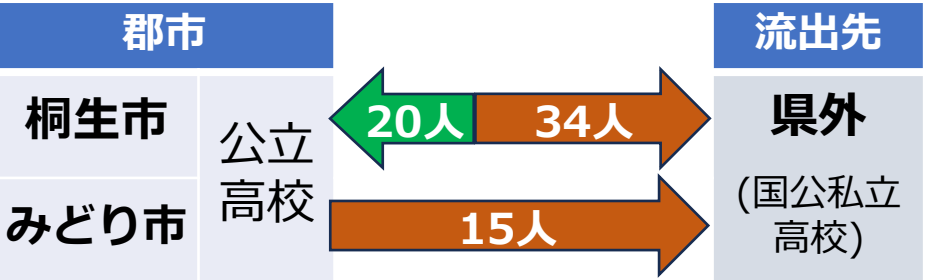
【県内他地区】



【県内私立高校】



【県外】



中学校卒業見込者数にともなうシミュレーション

中学校卒業見込者数

卒業年月	令和 8 年3月	令和13年3月	令和17年3月	令和22年3月
中学校卒業見込者数	1,141	1,010	834	576
増減(令和 8 年3月比)	—	-131	-307	-565

学級数及び学校数の見込み

高等学校名	学科等	令和8年		令和13年		令和22年
学校数		5校		5～4校		5～3校
桐生	普通科/理数科	8 学級	26学級	23～19学級		14～12学級
桐生清桜	普通科(単位制)	6 "				
桐生工業	工業系学科	4 "				
大間々	普通科(単位制)	3 "				
桐生市立商業	商業系学科	5 "				

中学校卒業見込者数にともなうシミュレーション

**令和8年度
1 学年定員**

全日制課程

5 校・26学級

桐生	普通科/ 理数科	8 学級
桐生清桜	普通科 (単位制)	6 "
桐生工業	工業系学科	4 "
大間々	普通科 (単位制)	3 "
桐生市立 商業	商業系学科	5 "

平均学級数
5.2学級/1校

学校数
を
維持

**令和22年度
シミュレーション**

5 校・13学級

桐生	4.0学級
桐生清桜	3.0 "
桐生工業	2.0 "
大間々	1.5 "
桐生市立商業	2.5 "

* 地区内の中学校
卒業見込者数の推移
R 8比 [50.5%] を基に
算出

- ・ 1 学年の平均
学級数
2.6学級/1校
- ・ すべての学校が
4学級以下に

※ [第2期高校改革推進計画] 2 県立高校の再編整備 (1)適正規模

イ 学習の専門性の確保に加え、多様な部活動の保障や学校行事等の活力維持から、1 学年当たり 4 ～ 8 学級を基本とします。

生徒同士が学び合い、切磋琢磨できる機会の減少、多様な学び・充実した教育活動の実施が困難

1. 学校の活力への影響

【学校行事・部活動など】

- クラス対抗行事や体育大会の種目数の縮減など、活動の幅が限定される。
- 文化祭等の準備・運営が困難になり、学校行事等が縮小される。
- 部活動数が少なく、生徒は希望する活動ができない。
- 部員数が少なく、運動部のチーム編成や、音楽系部活動のパート編成等が難しい。



生徒の学びの機会の減少

2. 学習活動への影響

【学習活動】

- コース別や習熟度別などの編成がしにくく、多様な学習形態を取りにくい。
- 専門の教員をそろえ、全ての科目を開講することが難しい。
(高校では、総合的な探究の時間以外に10教科15科目が必修科目)
→生徒の科目選択が制限される

＜学校規模別の配置教諭数の例（理科）＞

教科	科目	学校規模(1学年当たりの学級数)			
		2学級	4学級	6学級	8学級
理科	科学と人間生活	2人	4人	5～6人	6人
	物理基礎				
	物理				
	化学基礎				
	化学				
	生物基礎				
	生物				
	地学基礎				
	地学				
	理科課題研究				



生徒の進路選択に影響
(進学に必要な受験科目が選択できない等)

栃木県

➤ 未来共創型専門高校（再編統合）

- ・ 複数の職業系専門学科を併置 → 学科横断的学習を推進する総合選択制

＜特徴＞

- ＊ 異なる学科の生徒が連携・協働して探究的に学ぶ活動を推進
- ＊ 他の専門学科の科目や発展的な普通科系科目の選択が可能

岡山県

➤ 県立岡山御津高校（総合学科）（学科改編等）

- ＊ 高校進学を目指しているが、様々な理由で登校できていない中学生のための「教育支援センター“My Place”」を開設（R6）
- ＊ 全日制高校への進学を目指している不登校傾向の中学生に対して、入学後、他校の通信制課程の科目を一部履修（全通併修）することができるフレックス制を導入（R7）

大分県

➤ 大分県立情報科学高校 （学科改編等）

- ・ 2023年度に新たな時代を担う人材育成を目指して学科改編
→ A I テクノロジー科、ビジネスソリューション科、デジタル創造科の3学科
＜特徴＞
＊ A I、I o T、半導体など高度先端分野を総合的に学ぶ（A I テクノロジー科）

兵庫県

➤ 兵庫県立北神戸総合高等学校 （再編統合）

- ・ 2025年、県立神戸北高校(普通科)と神戸甲北高校(総合学科)の発展的統合により開校
→ これからの時代に合わせた多彩な科目（系列）を設置した総合学科高校
＜系列＞宇宙・気象、D X、ひょうごからスタートアップ、スポーツ・アウトドアと防災、
ダイバーシティ&インクルージョン、リベラルアーツ の6系列

京都府

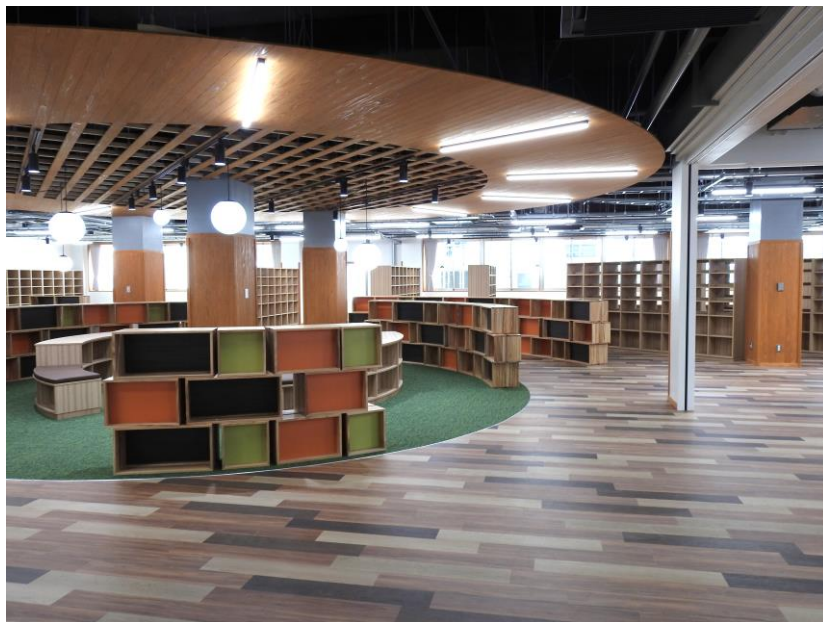
➤ 京都市立開建高等学校（学科改編等）

- ・ 2023年、京都市立塔南高校(普通科・教育みらい科設置)を再編して開校
→ルミノベーション科（その他普通教育を施す学科）を設置（1学科のみ）
- * 「自ら主体的に考え、探究し、多様な他所と協働することを楽しみ、未来を創造する人物」
の育成を目指し、対話・協働の学び、地域・社会での学び(探究活動)を展開。



➤ 沼田高等学校 （再編統合）

- ・ 沼田高校と沼田女子高校の統合により、
2025年4月に開校した普通科共学校
→進学重視型単位制、文理探究コースを設置
- * 幅広い選択科目・・・自分だけの時間割
- * メディアラーニングセンターをはじめとする最新の学習環境を整備



← メディアラーニングセンター

検討方法

- 座長は第三者（有識者等）で開催
- 開催の要望を頂くなど、準備の整った地区から順次 開催

検討内容

○地区の高校の未来像について

- ・生徒、地域の未来にとって、どのような高校が必要か
- ・各地区にふさわしい高校とは 等

ゼロベースで
地区関係者による
検討